

第10回

自分らしく生きることのサポート

Hi、みなさん。今回は高次脳機能障害のリハビリテーションの目標（ゴール）について話をしました。高次脳機能障害は多因子がお互いに関連して形成されるため、記憶の回復や遂行機能障害の改善といった一つの因子の変化だけではゴールにはならないわけです。そして、神経心理学的リハビリテーションでは「identityの確立」や「well-beingの達成」がゴールとして掲げられるようになったのでした。今回は、我が国でどんなことを考えるかという点を提案してみようと思います。

アイデンティティとは何か。辞書には自己同一性とあり、自分を自分たらしめるところと説明されます。そして、このアイデンティティは多層構造を呈し、行動や課題遂行がその下位構造を形成するのだそうです。つまり、日頃の行動や生活がアイデンティティ構築の基盤になるという考え方ですね。そこで当院では、この生活基盤をしっかり作ることがアイデンティティを再確立する（自分らしく生きる）ことのサポートになると考えました。すなわち、安定した病棟生活の確立からスタートし、安定した自宅生活、社会生活、職業生活を再度作っていくことを目標にしていきます。例えば、患者さんがまだ初期で大声をあげたりしている時には、どうしたら病棟で何とか過ごせるかに注力します（安定した病棟生活の構築）。何とか病棟で過ごせるようになったら、安定した自宅生活の構築、それが可能になったらそれを社会生活、職業生活に広げていきます。職業が自分のアイデンティティになることが多い我が国では、職業生活を再構築した後(数年後?)初めて自分は本当にこれでいいのだろうか考える方が多いようです。

多くの因子が絡む高次脳機能障害では、少し大きい枠組みですが、こうした「生活」を軸にした整理が有用に思います。各症状へのアプローチは、こうした生活の確立のための手段と位置づけています。

皆さんのお近くにいる高次脳機能障害者の皆様は今、どの段階ですか。安定した病棟生活、自宅生活、社会生活、職業生活のどの再構築が目標になっているのでしょうか。それともその先に来ていますか。

(Do you see who you are? 青木 重陽)